

(別記様式)

令和 7 年度 府立 朱雀 高等学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) ( 計画段階 ・ **実施段階** )

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>朱雀高校の教育目標・校訓をもとに次のように定める。</p> <p>1 生徒の期待に応える「生徒本位」の学校づくりに教職員全員体制で取り組む。</p> <p>2 生徒に学ぶ主体としての自覚を持たせ、学習に励み、進路を切り拓き、社会で生き抜く力を育てる。</p> <p>3 規範意識を育てて、自らを律し、自主活動を通して他者と協働する力を育む。</p> <p>4 心身ともに健康な生徒の育成と安心・安全な学校づくりを行う。</p> <p>5 開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域との連携を進め、理解と信頼を得る。</p> <p>6 本校全日制に学ぶ生徒が、自らに自信を持ち、明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送るための朱雀プライド計画」を積極的に推進していく。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 「生徒たちが自らに自信と誇りを持って明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送る」ことを目指した朱雀プライド計画 (制服導入・コース制導入・部活動活性化) 第2ステージ「朱雀 Grow Up Project」を推進。「安心して生活できる学校」への変革に一定の成果をあげることができた。</p> <p>(2) 基礎基本の徹底により学習意欲の向上が見られ、2年生 10 月時の進路希望調査において進学希望者が大きく増加した。</p> <p>(3) 様々な発達課題や障がいのある生徒への対応を含め、生徒一人一人に丁寧に向き合い、適切な支援・指導を行うことで卒業・進級へと導くことができた。</p> <p>(4) 学校行事等の実施に学校外部の人材を活用した探究・協働学習の場を確保することで生徒相互の交流促進、社会性や自主性の育成を図ることができた。</p> <p>(5) 部活動加入率は約 70%。前年度に引き続きポート部が全国大会に出場する等、学校の活気向上につながった。</p> <p>課題</p> <p>(1) 各学年、各コースにおいて基礎学力の定着を図る取組を引き続き充実させる。</p> <p>(2) 生徒の希望進路実現に向けた様々な取組をより充実させる。</p> <p>(3) 地域から「高い信頼・期待を持たれる学校」へと更に進化を続ける。</p>	<p>1 活気ある学校づくり</p> <p>(1) 生徒一人一人にしっかりと向き合い、生徒の良さ・可能性を引き出す指導を進める。</p> <p>(2) 開学 120 年を超える伝統校であることを再認識する機会を設け、生徒・教職員の帰属意識や誇りを高める雰囲気醸成する。</p> <p>(3) 教職員間の意思疎通や連絡体制を円滑にし、学校施設や環境の充実整備に努め、活気ある学校づくりを目指す。</p> <p>2 主体的な学びと進路実現</p> <p>(1) ICT 機器の活用を推進し、生徒一人一人の能力や適性を踏まえた学習の充実を図るとともに、夢や希望の実現に向けた進路指導を充実させる。</p> <p>(2) 探究学習等の拡充により、生徒の主体的な学びを伸張する学習指導を工夫する。</p> <p>3 自律と自立</p> <p>(1) ルールやマナーの意義を考える取組を進め、規範意識を醸成するとともに、望ましい行動を育てるポジティブ行動支援を推進する。</p> <p>(2) 学習活動や特別活動を通じて、自己調整力や粘り強く物事に取り組む態度を養成する。</p> <p>(3) 部活動の活性化を推進し、学校に軸足を置いた学校生活を送ることによる充足感を向上させる。</p> <p>4 健康と安全</p> <p>(1) 健康安全教育を充実させ、自他のいのちを守る安全意識を育成する。</p> <p>(2) 生徒一人一人の個性を尊重し、人を思いやる心を育み、人権意識を育成する。</p> <p>5 地域に開かれた学校づくり</p> <p>(1) 地域と連携した取組をより積極的に推進する。</p> <p>(2) 「朱雀プライド計画」の進行により変化してきた朱雀高校の良さを伝える広報活動をより一層充実させる。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
組織・運営	学校経営計画に基づいた教育活動の実践につながる運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内諸会議や研修会を通じて共通理解を図り、具体的な方策により重点目標の達成に努める。</li> <li>効果的校務運営のために分掌機能の整理・充実を図るとともに分掌間の連携を図る。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程改編の過渡期であり、とそれに伴う学校体制の改善を進めた。</li> <li>外部機関や地域と連携し多くの体験的な学習機会を校内外に設定した。</li> <li>校内の教育諸課題に対して校内会議が機能し、他課程間との交流や自習室の環境充実など学校活性化を図る取り組みができた。</li> </ul>
	学校活性化と魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関や地域と積極的に連携・調整を図り、生徒の視野を広げる取り組みを実施する。</li> <li>校内の教育諸課題を整理し、学習指導要領等に基づいて適切に改善を進める。</li> </ul>	A	A		
教務部	学習への意欲を高め、生徒の学力充実・学力保障に努め、全ての生徒の進級・卒業を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>出欠や学習の状況に関するデータや情報を適宜整理し、全体で共有することで、学校生活上や学習上の課題のある生徒に対して教員集団として取り組み、原級留置や進路変更の防止に結びつける。</li> <li>ICT機器の活用した個別最適化の指導の実現により、全ての生徒に対して、学力伸張を図る。</li> </ul>	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務システムの入力・修正方法の整理や共有は一定進んだが、指導と評価の一体化については更に工夫を進める必要がある。</li> <li>ICT機器の活用について、授業内での創意工夫は進んでいる一方、自宅学習を含む個別最適化指導の充実については、今後の課題である。</li> <li>引き続き生徒の学力向上のための効果的な教育課程の編成について研究を進めたい。</li> </ul>
	指導と評価の一体化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力向上のために適切な指導計画を立てるとともに、評価の基準を見直すなど、より良い指導につながる評価の仕組みを整える。</li> </ul>	B	B		
	校務システムの適切で効果的な運用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来を見据え、システムの理解を教員全体で共有できるようにする。</li> </ul>	A	A		
生徒指導部	自主活動を通じた生徒の自立と自治能力を持つ生徒集団の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会をサポートし、生徒の自主自治の力を育成するとともに、委員会活動の活性化を図る。</li> <li>行事の企画や運営、参加を通じて母校への帰属意識を高め、愛校心の醸成に努める。</li> <li>部活動の加入率向上を目指す。また、部活動代表者会議等の指導を通してリーダーとしての能力を育てる。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事等を通じて生徒が主体的に行動できる機会を設けることができた。</li> <li>イメージキャラクターの名称決定作業で母校に思いをめぐらせ、式典での伝達表彰の場では仲間の活躍を称える態度を見て取ることができた。</li> <li>場に応じて身なりを整える、注意を受けたら素直に正せるといった行動が各所に見られるようになった。一方で遅刻も一定数見られ、必要性や意義を伝えながら、粘り強い指導が必要である。</li> <li>今年度も大きな交通事故が発生することはなかったが、校外における交通マナーの遵守については、繰り返しの</li> </ul>
	生徒の規範意識の醸成を図る。落ち着いた学習環境のもと、安全・安心の場をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみ指導等の生活指導について全学年、全分掌との連携のもと全校体制で行い、規範意識の醸成をはかるとともに、主体的にマナーアップを行う態度を育成する。</li> <li>遅刻防止指導等により生活習慣の確立に努め、落ち着いた学習環境作りに生徒指導面からの働きかけを行う。</li> </ul>	B	B		
	自他の生命を大切にできる態度を育成し、実践させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通ルールの遵守および交通安全についての啓発を推進する。</li> </ul>	B	B		

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ及び学習タブレット等の使用およびSNS等の使用に関するネットルールやマナーを考える機会を設け、遵守する態度を育成する。</li> </ul>	B		呼びかけが必要である。
進路指導部	進路を切り拓く力を伸ばし、適切な進路選択ができるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『朱雀2分間チャレンジ』の取り組みなど学習機会の創出に努め、学力の向上につなげる。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習機会創出を進めることはできたが取り組み状況には差がある。生徒の自主性・主導性を引き出す工夫をしたい。</li> <li>・各種進路行事は生徒の進路意識向上に効果がみられるが、その向上が一過性のものにとどまる生徒もみられる。指導のあり方について、更に工夫を重ねたい。</li> <li>・保護者向け進路説明会への参加は増加傾向。今後より一層情報提供に努める。</li> <li>・行事ごとの振り返りをClassiで記録しておくことでキャリアパスポートを実りあるものにしていく。</li> <li>・入室時の指導により社会生活に必要な基本等が身につくように努めた。人間関係づくりの最初にくるものであるので今後も指導を重ねていく。</li> <li>・社会参加に向けて意識を高めようと外部講師に依頼して講演を行った。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携事業等によって進路意識を刺激し、進路希望の早期明確化につなげる。</li> </ul>	A		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向けの情報提供に努め、進路選択をサポートする。</li> </ul>	B		
	自己と社会についての認識を深め、豊かな人生が送れるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポート等を活用して人生観や仕事観を深め、よりよい人生の構築につながるよう導く。</li> </ul>	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・適性の再発見や可能性の追求を通じて、自己と社会との関わりについて認識を深める。</li> </ul>	A		
	よりよい社会の構築を目指し、自他の人権を尊重するよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や服装、言葉遣いの指導を通じて、社会生活に必要な基本を身につけるよう指導する。</li> </ul>	B	B	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に出るにあたり、働く者としての権利と社会への貢献とを意識できるよう指導する。</li> </ul>		A			
保健部	健康な心と身体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断の結果をふまえて、治療勧告や再検査が必要な生徒に対する指導の強化を図る。また未受診者への指導を徹底する。</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診結果の通知や治療勧告を適宜行い、未受診者の数を減らすことができた。未受診者0を目指し、指導のさらなる工夫が必要である。</li> <li>・毎月発行の『ほけんだより』により、感染症予防をはじめ、熱中症や睡眠についてなど、知識の習得と自身の健康を考える機会を作った。</li> <li>・健康学習は、1、3年生が性教育、2年生はがん教育を実施した。健康学習は他者の気持ちを考えた行動の大切さや人権についても考える機会になった。</li> <li>・校内清掃の取り組みは概ね目標達成できている。さらに厚生委員と連携し、ポスター作成や清掃用具の点検</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の身体状態を把握し、改善や予防ができるようほけんだよりをはじめ、健康教育を充実させ、生徒の健康管理能力を高める。</li> </ul>	A		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防の啓発および対策に努める。</li> </ul>	A		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態を的確に捉え、社会情勢を踏まえた健康学習を実施し、自らの心身を守り、他者の人権を尊重する姿勢を育む。</li> </ul>	A		
	校内美化活動の推進と環境についての意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な清掃はもちろん大掃除の機会を通じて校内美化を推進する。</li> </ul>	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生委員会と積極的に連携し、生徒の校内美化意識を高め、トイレの使用マナーの向上やゴミの分別の徹底を図る。</li> </ul>	B		

	生徒の心の健康への理解と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校に不適應を起こしている生徒や心身に課題を持つ生徒について、学年部と連携を深め、早期の状況把握と情報共有に努める。また、教育相談会議を中心に、生徒の課題を明確にし、支援の方策について検討し、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザー等とも連携して対応する。</li> </ul>	B	B	<p>を行い、校内美化を推進するとともに美化意識を高めることができた。一方でHR教室以外のゴミの分別に課題が残った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心身に課題を持つ生徒について、教育相談会議を中心に、状況把握と情報共有を図ることができた。また生徒にスクールカウンセラーの積極的活用を勧め、相談しやすい体制づくりを推進することができた。個々に応じた支援ができるように、引き続き学校として支援体制を工夫していく必要がある。</li> </ul>
企画推進部	総合的な探究の時間の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>実社会や実生活の中から問いを立て、問題発見能力・情報活用能力を育成するとともに、視野を広げ自身の世界観を広げていく土台とする。</li> <li>外部人材等を活用しながら生徒の視野を広げる取組を充実させる。</li> <li>ゼミ形式での探究活動を実施し、教員の専門性を活かしながら、生徒の関心のある分野についての深い探究活動をおこなう。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会問題を題材にした探究活動により、生徒自身が「問い」を立てる経験が増えた。また、社会課題に触れることで、生徒の関心領域が広がり、自身の将来観・世界観を広げるきっかけとなっている。</li> <li>生徒によって「問いの質」にばらつきが見られ、探究の深まりに差がある。情報収集の方法やデータの扱いに関するスキルに未習熟な部分も残っている。</li> <li>日程調整を綿密に行ったことで、学校説明会や中学校訪問を計画的に実施できた。また、中学校との連携が強まり、教員・生徒双方に本校を知ってもらう機会が増えた。</li> <li>生徒の関心や授業内容に即した選書が進み、貸出冊数や来館数が増加した。また、新刊紹介、POP、図書館だよりなどの広報が活発化し、図書館の存在感が高まった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会や中学校訪問を適切な時期に実施し広報活動を充実させる。</li> <li>学校内外での様々な取組等、本校の魅力を適切に発信する。</li> <li>明確な目的意識を持つ入学者を増やすために広報活動を充実させる。</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な選書、広報活動の充実等に取り組み、生徒の興味関心を引き出す図書館活動を目指す。</li> <li>新学習指導要領に則り、授業での図書館活用推進および教育活動支援を行う。</li> <li>図書委員会活動の活性化を図る。</li> </ul>	A	B	
学年部	基本的な生活習慣を確立し、規範意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>望ましい生活習慣・学習習慣を身につけることができる指導を進める。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況に応じて学年集会を開催し自他の学校生活を大切にしよう指導し</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット・携帯電話・スマートフォン等の使用マナーについて考える機会を設ける。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>た。</li> <li>・ 考査前に計画を立てて学習するよう指導した。</li> <li>・ タブレット、スマホなどのマナーについて人権学習の中で扱った。</li> <li>・ 一人ひとりの授業への積極参加や自発的な学習がよい学習環境作りにつながることを伝え、更なる意識向上を目指す必要がある。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自他にとってより良い学習環境をつくろうとする意識を高める。</li> </ul>	B			
	自主活動を通して多面的な成長を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修旅行や学校行事等の活動を通じ、協調性や規範意識を高め社会に通じる力の育成を図る。</li> </ul>	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修旅行や学校行事等の活動を通じ、協調性や規範意識を高めることができた。</li> <li>・ 自ら前向きに進路実現に向けた学習に取り組む姿勢を今以上に伸張させたい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主活動を行う中で、視野を広げて、新たな可能性の発見や自分の適性を把握する機会を設けるなど、個々に応じた進路実現に向けての成長を図る。</li> </ul>	B			
	進路目標の明確化と進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面談等を通じて、進路目標の明確化を図り、生徒個々の進路実現に努める。</li> </ul>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面談等を適切に行い、生徒個々の進路実現に努めることができた。</li> <li>・ 補習や模擬試験の活用、就職に向けたインターンシップについてさらに充実させたい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分掌や教科と連携し、補習や模擬試験を効果的に実施して進路実現を促進する。</li> </ul>	B			
事務部	学校施設や環境の充実に努め、活気ある学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習内容や方法の変化に対応できる施設設備の充実に努める。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各執務室のLED化や高等学校DX加速化推進事業に係る施設・機材の整備に努めた。</li> <li>・ 各種修学支援制度について機会を捉え、周知した。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画的に老朽施設設備の改修に取り組む。</li> </ul>	B			
	生徒の就学を支援するため、適切に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種支援制度の周知を図るとともに、適切に活用できるよう努める。</li> </ul>	B	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朱雀高校の実践している様々な取組や魅力が外部に認知されている。</li> <li>○地域と連携した活動や、全日制・定時制・通信制の三課程の生徒が交流する場が設定されたことは評価できる。</li> <li>○学校全体が落ち着いた環境となっている一方で、生徒への個別対応が益々必要になっている現状から、学習方法や評価、生徒への接し方の視点を学び、変化させてゆくことが大切だと思う。</li> </ul>
-------------------------	---

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校全体の落ちついた雰囲気や学習・学校行事等に集中して取り組む雰囲気が高まる等の成果が見える。学校改革の成果と課題を整理し、さらなる発展に向け、引き続き魅力ある学校づくりに努めること。</li> <li>○生徒個々の特性や学力の違いに応じて個別最適な学びを保障するための教科指導や評価方法について改善を図ること。</li> <li>○生徒の自主的活動の場を多く設定し、生徒の活躍を適切に支援・指導すること。</li> <li>○生徒の希望進路の実現へ向けて、3年間を見通した計画的・体系的な進路指導の充実に努めること。</li> <li>○広報活動をより工夫するとともに地域・外部との連携を図ることで朱雀高校の取組や良さを積極的に発信すること。</li> </ul>
-----------------------	---